



ファンドマネージャー 秋野 充成の AKINO REPORT



代表取締役社長 秋野充成

 いちよしアセットマネジメント

FM 今週のポイント (8月10日)

*イラン情勢の不透明感が継続しているものの、原油価格(WTI 先物)は70ドル台後半で膠着(急騰は免れている)しています。また、日米為替協調介入(米国の債券市場安定化への強い意志)の余韻もあり、米国長期金利は低下傾向です。米10年債は一時、4.7%(7月31日)を超えていましたが、7日には一時4.6%水準まで低下しました。金利低下傾向を受けて、軟調に推移していたナスダック総合指数が反転しています(7月29日から8月7日までの上昇率は9.2%)。テック株の反転に促されてSOX指数も上昇(同期間で18.3%)しています。AI・半導体集中相場の正=自律調整局面はピークアウトした模様です。国内においても、日経半導体株指数が同期間16.7%上昇、象徴銘柄であるキオクシア(285A)は24.4%の上昇です。4月から6月のAI・半導体集中相場の暗転は、株式市場参加者に大きな傷を残しました。底打ち反転したとしても、需給的に上値の重い展開が想定されます。当面は、ゴルディロックシナリオ回帰のもと、分散相場の浸透をイメージしています。

*注目された7月米雇用統計。米非農業部門雇用者数は前月から2.3万人減となり、市場予想の8万人増を大きく下回りました(直近2ヵ月で合計10.3万人下方修正された)。その一方で失業率は4.1%(前月4.2%、市場予想4.2%)に2ヵ月連続で低下し、FOMC参加者のLonger-run予想4.2%を下回っています。失業率の低下は、労働参加率が61.4%(前月61.5%、市場予想61.6%)に低下したことが要因です(移民政策の厳化により外国人労働力の減少が大きく影響している)。平均時給は前年同月比+3.2%(前月同+3.4%、市場予想同+3.5%)、前月比は+0.1%(前月同+0.3%、市場予想同+0.3%)と、前年同月比と前月比ともに前月から減速し市場予想を下回っています。想定よりも大きく下振れた雇用統計を受けた各市場の反応は、早期利上げ観測の後退による金利低下(2年債利回り:0.053%低下)が、株式市場を押し上げました。ドル円相場は、円高に振れたものの限定的で、2024年8月の令和のブラックマンデー再来は回避しました。

*CME Fed Watchによると、今後のFOMCにおいて米政策金利が3.50-3.75%(現状から据え置き)となる確率はそれぞれ9月58.1%(前日45.0%)、10月42.6%(同31.0%)、12月23.9%(同15.5%)に上昇しました。依然として債券市場では、2026年内での利上げがメインシナリオですが、年内に2回の利上げが行われる確率は31.4%(同42.9%)に低下しました。今後のポイントは9月FOMCに向けて、マーケットの政策金利観が下方修正されるか否かです。ウオーシュFRB議長からの積極発言は想定できないため、インフレ統計等(7月CPIは12日発表)を吟味して都度都度の織り込みとなるため、ボラティリティは上昇せざるを得ません(ボラティリティ上昇はコストとなり、金利は上昇傾向)。したがって従来よりもOISカーブは上方推移となりやすく、見た目の政策金利観は高止まりしそうです。つまり、現状のOISカーブが維持されるだけで、株式市場においてはゴルディロックシナリオへの回帰は可能です(9月の利上げ無しが前提)。

*当面の国内株式マーケットは、AI・半導体銘柄の底打ち反転で、上昇基調を強めるものと思われます。ただし、4月から6月のようなモメンタム相場とはならず、NT倍率は、16.5倍程度が限界と思われます。日経平均株価は68000円水準が戻りの目途と考えていますが、TOPIXの最高値更新の可能性は高いと思われます(TOPIX:4150ポイント⇒NT倍率16.5倍で日経平均株価:68475円)。

『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商 号 等： いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号
加入協会： 一般社団法人 資産運用業協会